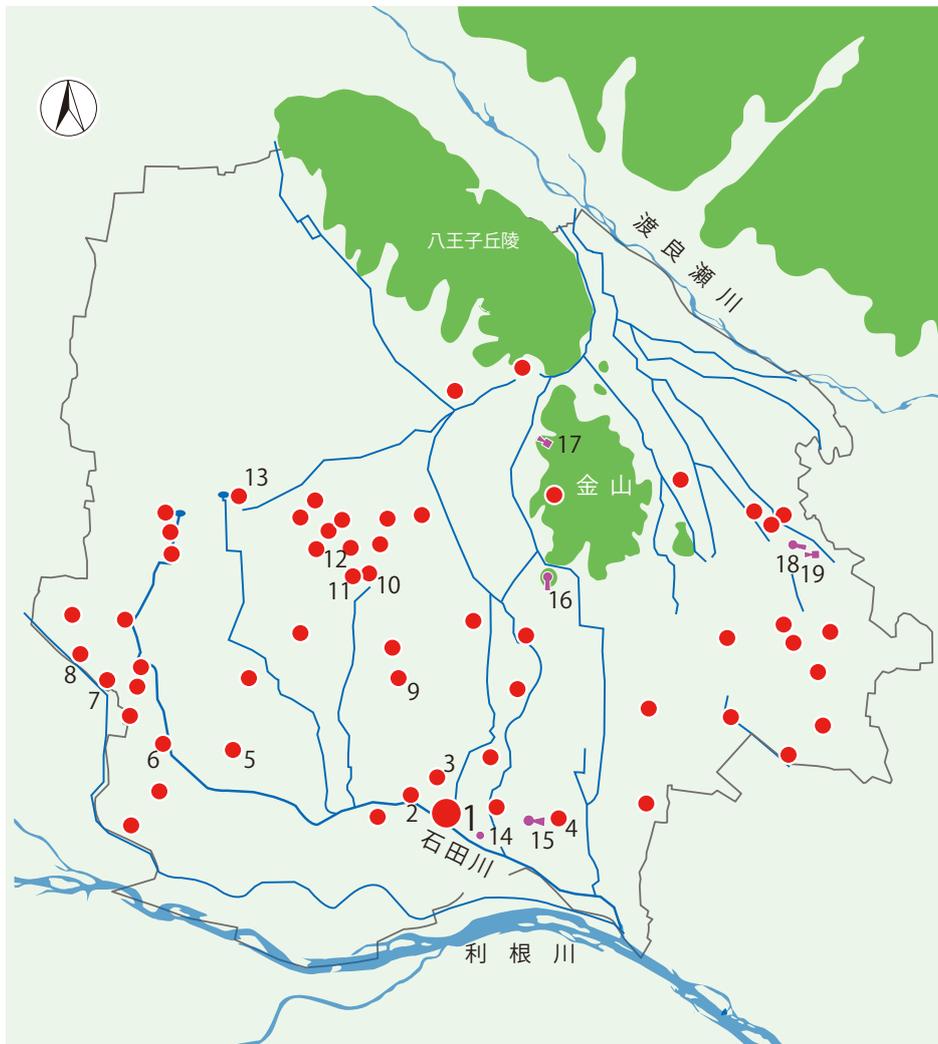


# いしだ がわ い せき 石田川遺跡

石田川遺跡は、太田市南部を流れる石田川の左岸にある微高地に立地しています。(太田市米沢町地内、北緯36°15'42"東経139°20'40"付近)

昭和22・24年のカスリーン台風・キティ台風の被害を経て、その後の治水対策として昭和27年に石田川および米沢川における堤防構築工事が行われました。そのとき、土取り現場から多数の土器が確認され、群馬大学尾崎喜左雄教授の指導のもと、当時新田郡藪塚本町藪塚の今井旅館経営者であった今井新次氏と、群馬大学学芸学部史学科学生であった松島榮治氏によって調査が進められました。

昭和43年に刊行された調査報告書において、上記昭和27年の調査で出土した土器の一部に対し、「石田川式土器」の型式が設定されました。それ以来、北関東地域における古墳時代前期の土器型式の指標として位置づけられています。



- 1石田川遺跡 2米沢二ツ山遺跡 3米沢中遺跡 4高林遺跡 5花園遺跡 6歌舞妓遺跡 7中道遺跡  
8西今井遺跡 9五反田遺跡 10中溝・深町遺跡 11一本杉Ⅱ遺跡 12村田本郷遺跡 13重殿遺跡  
14頼母子古墳 15朝子塚古墳 16八幡山古墳 17寺山古墳 18矢場薬師塚古墳 19鶴巻山古墳

## 太田市域のおもな石田川期の集落と当該期の古墳分布

(太田市『太田市史 通史編 原始古代』1996年の図4-7東毛地域の石田川期集落の遺跡分布を参考に図化した。)

# 石田川遺跡の出土遺物



石田川遺跡の発掘調査は、昭和27年堤防工事に伴う発掘調査と、平成8年度河川改修工事に伴う発掘調査が行われ、それぞれの調査で古墳時代の住居跡などが見ついている。

石田川遺跡出土土器（台付甕）  
〔昭和27年堤防構築工事に伴う発掘調査〕

## 石田川式土器の特徴

外観はS字状に屈曲した口縁部、大きくはらんだ胴部が特徴。薄く仕上げられた器壁、外側は櫛状の工具によって装飾されている。下部には炉の中で自立するように台が付いている。



石田川遺跡出土土器（台付甕）  
〔平成8年度河川改修工事に伴う発掘調査〕



石田川遺跡出土土器（壺）  
〔昭和27年堤防構築工事に伴う発掘調査〕



石田川遺跡出土土器（壺）  
〔昭和27年堤防構築工事に伴う発掘調査〕



石田川遺跡出土土器（高坏）  
〔昭和27年堤防構築工事に伴う発掘調査〕



石田川遺跡出土土器（鉢形土器）  
〔昭和27年堤防構築工事に伴う発掘調査〕



石田川遺跡出土土器（小形丸底埴）  
〔昭和27年堤防構築工事に伴う発掘調査〕



石田川遺跡出土土器（器台）  
〔昭和27年堤防構築工事に伴う発掘調査〕

はにわ  
埴輪

昭和27年堤防構築工事に伴う発掘調査出土。消失してしまった古墳の埴輪であると推測される。  
5世紀後半代のものであると思われる。



石田川遺跡出土の円筒埴輪



石田川遺跡出土の鶏形埴輪の頭部。彩色されている。

## 周辺の遺跡



花園遺跡A区第7号住居跡出土土器（台付甕）  
〔平成元年度国道354号道路改良に伴う発掘調査〕



歌舞妓遺跡第162号住居跡出土土器  
（台付甕・鉢形土器・器台）  
〔昭和58～60年度尾島工業団地造成に伴う発掘調査〕



中道遺跡出土土器（甕・台付甕）  
〔昭和50・51年度送電線建設に伴う発掘調査〕



いしいまい いせき  
西今井遺跡出土土器（台付甕）  
〔平成元年度新田西部第2工業団地造成に伴う発掘調査〕



こたんだい いせき  
五反田遺跡出土土器（台付甕）  
〔昭和47年度宝泉住宅団地造成事業に伴う発掘調査〕



なかみぞ ふかまち いせき  
中溝・深町遺跡第32号住居跡出土遺物（台付甕・壺）  
〔平成6～8年度新田東部工業団地造成に伴う発掘調査〕



いっぼんすぎ いせき  
一本杉Ⅱ遺跡第3号住居跡出土土器（台付甕・埴）  
〔平成6～8年度新田東部工業団地造成に伴う発掘調査〕



むらたほんごう いせき なかみぞ いせき  
村田本郷遺跡・中溝遺跡出土土器（台付甕）  
〔昭和61・62年度新田東部地区ほ場整備事業に伴う発掘調査〕

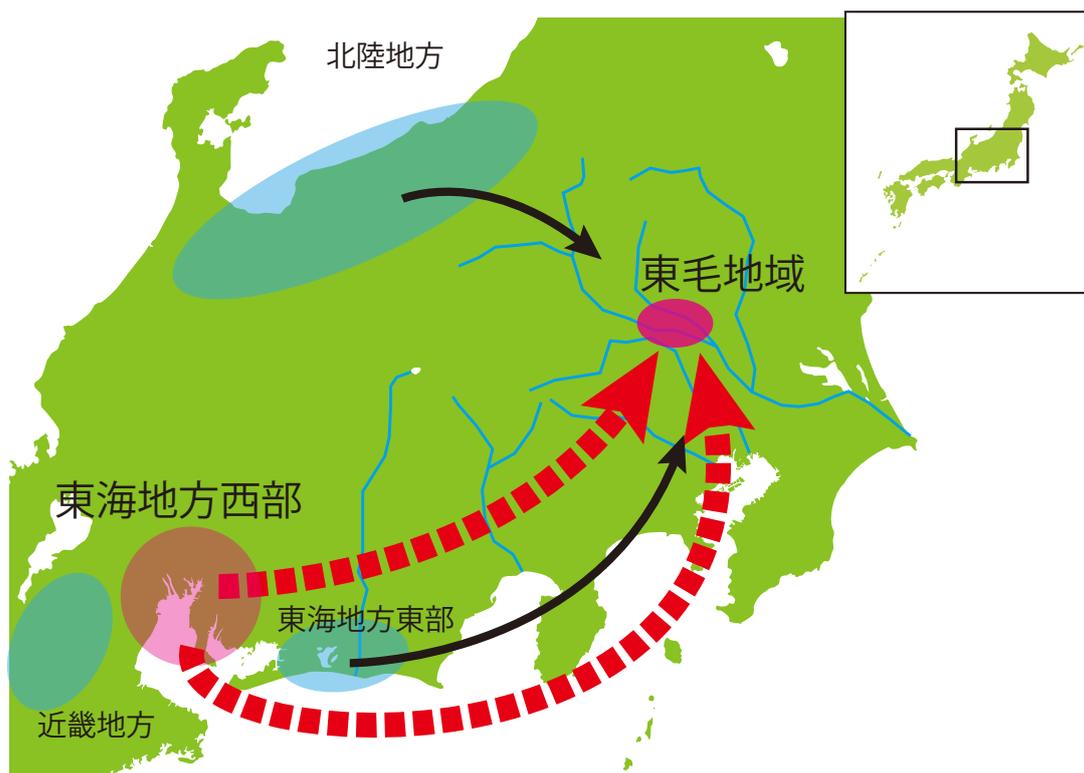


じゅうどの いせき  
重殿遺跡2次調査第12号住居跡出土遺物  
（台付甕・壺・器台・埴）  
〔昭和58年度市前ほ場整備事業にともなう発掘調査〕

## 土器からわかる人・社会の動き

石田川式土器の特徴を持つ土器の源流は、東海地方西部にあるといわれています。なぜなら、出土している土器の外見や調整技法などがよく似ているからです。つまり東海地方西部にあった土器の文化が、東毛地域をはじめとする関東地方へ波及したと想定されています。このほかに東海地方東部や近畿地方、北陸地方からもそれぞれの土器の文化が関東地方へ伝わる現象が発掘調査結果から明らかとなっています。土器文化の波及は「モノ」や「技術」、「情報」など「文化」の伝播であり、それはつまり「人」の移動であるといえます。つまり、西日本や北陸から関東地方へ文物とともに多くの人々が流入してきたと考えることもできるのです。

このような人やモノの動きがあった背景は何だったのでしょうか。石田川式土器が作られたのは古墳時代前期頃（3世紀後半～4世紀代）といわれます。邪馬台国と狗奴国との抗争に終止符が打たれ、ヤマト政権が勢力を拡充してゆく時期でもあります。「戦争による難民の流失」、「政治的な集団入植」などさまざまな説がありますが、今のところ明らかではありません。



土器文化の流入

おた しきょういっく いんかい ぶんか ざい か  
太田市教育委員会 文化財課

〒370-0495 太田市粕川町520尾島庁舎

電話0276-20-7090、FAX0276-52-6080

印刷 平成25年3月